

【問い合わせ】
町経営企画課
地域政策グループ
☎ 73-7502

ふるさと納税は「税金」ではなく「寄附」



町ふるさと納税担当 原田 恭兵

ふるさと納税の仕組み

まず知ってもらいたいのが、ふるさと納税というのは「納税」とか「税金」ではなく、応援したいまちへの「寄附」だということです。

自分のふるさとや応援したいまちを選んで寄附をすると、自己負担額2000円を除いた額が、翌年の住民税や所得税から控除・還付される仕組みです。そもそもの始まりは、都市に

年収300万円の寄附者の例

▶ 控除上限額目安 **28,000円**

寄附額 25,000円

住民税からの控除

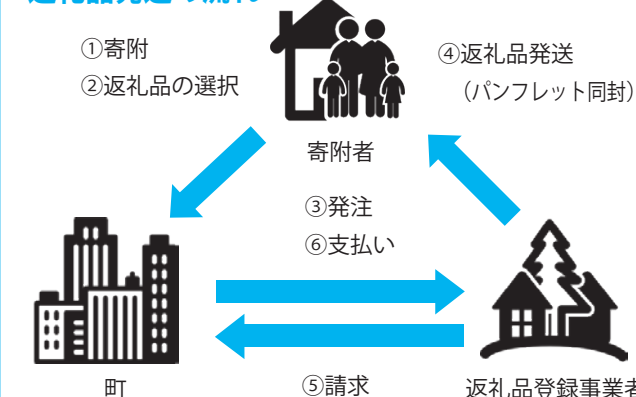
住民税からの控除 23,000円

実質自己負担額
2,000円

住民人々が過疎や高齢化など多くの課題を抱えるふるさとや、課題解決に向けて頑張っているまちを応援するために、作られた制度なのです。

その後、寄附をいただいた自治体が感謝の気持ちを込めてまちの特産品を贈ったことが、今日の返礼品ブームのきっかけと言われています。また、ふるさと納税には大きく4つの魅力があります。

返礼品発送の流れ



- ① 返礼品がもらえる
- ② 税金の一定額が還付・控除される
- ③ 応援したい自治体に寄附ができる
- ④ 寄附金の使い道を指定できる

中でも返礼品がかなり注目されていて、「ふるさと納税」の特産品が手に入る」というイメージが定着しています。地方にとってみれば、たくさんの方々が集まるうえに、お礼の品を通して全国にまちをアピールできてとても良いことではあるのですが、次のステップとして、多くの方に応援していただけるような寄附金の使い道をきちんと伝えていかなければいけないと考えています。

ふるさと納税の実績

平成28年度は、総額2億493万1190円、1万6134件もの寄附がありました。

このうち、お礼の品や郵便料などの経費を除いた8000万円を平成29年度に栗山町が実施する事業で使わせていただいています。

だけど、たくさんの方の寄附額があるからすごいのではなく、いただいた大切な寄附金をきちんとまちづくりに生かすことが本当に大事なんです。

自治体の中には、ふるさと納税でいただいた寄附金は全て子育てや少子化対策事業にしか使わないと公言しているまちや、古民家を改修してゲストハウスを開業すると具体的な使い道を示して寄附を集める「クラウドファンディング型」など、使い道の創意工夫が始まっています。

栗山町もたくさんの方に共感いただき、いつまでも応援していただけるような取り組みを行っていききたいと考えています。

栗山町
ふるさと納税返礼品贈呈事業

**平成30年度
返礼品登録事業者
を募集します**

【募集期間】
1月31日(木)まで

【応募先・問い合わせ】
町経営企画課地域政策グループ ☎ 73-7502



町ではふるさと納税制度を活用した寄附促進と地元産品のPRを目的に、寄附者への感謝の気持ちを込めた返礼品を贈呈しています。

ふるさと納税制度についてご理解いただき、栗山町を元気にするためにご協力いただける町内事業者を募集しますので、お気軽にお問い合わせください。

【応募方法】

上記までお問い合わせいただくか、町ホームページをご覧ください。



ふるさと納税ミニコラム

ニュースで話題の「3割」ってなんだろう？

高額な電子機器や換金性の高い金券などをふるさと納税のお礼の品として贈る自治体が一部にみられたことから、ふるさと納税制度の在り方を見直すため、平成29年4月に総務大臣から全国の自治体へ通知がありました。

主な通知内容は右記のとおりです。

【返礼品に関する主な通知内容】

- 商品券など金銭類似性の高いものを送付しないこと
- 電子機器など資産性の高いものを送付しないこと
- 価格が高額のものを送付しないこと
- 寄附額に対する返礼品の調達価格を3割以下とすること

栗山町ふるさと納税へのご厚意ありがとうございます。

平成29年度 ふるさと納税

4/1 ~ 11/30 までの総数 **13,097件**

114,469,036円

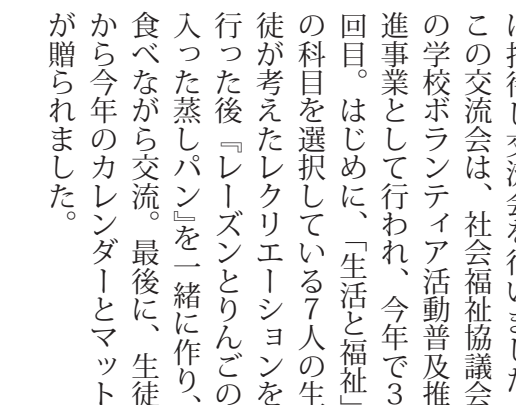




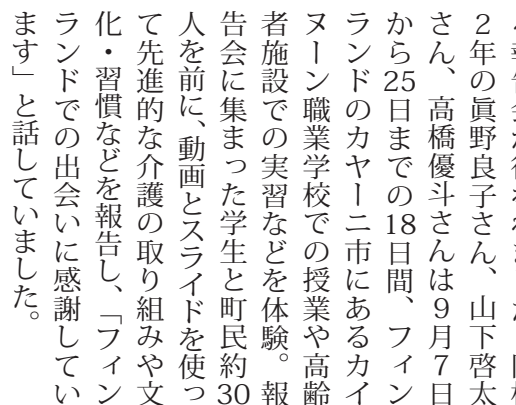
**12/13 地産地消を子どもたちに
4Hクラブ手打ちうどん教室**
4Hクラブ主催の町内産ゆめちからを使った「手打ちうどん教室」が栗山小学校で開かれました。町内の小学生に地域農業への理解を深めてもらおうと同クラブ会員が指導し、毎年開催。この日は6年2組35人が参加しました。はじめに小麦粉と塩水を入れたビニール袋を振って、生地づくり。その後、棒で薄く延ばし、麺切りに挑戦。長さや太さがさまざまに個性豊かな麺が出来上がりました。ゆでた麺に、町内産野菜がたっぷり入った出汁をかけ、おいしくいただきました。



**11/26 やっぱり元気が一番！
継立健康フェスティバル**
地域住民の健康づくりと交流を目的とした「第14回継立健康フェスティバル」が、南部公民館で開かれました。今年から継立まちづくり協議会、継立町内連合会、継立健康づくり推進員での共催となり、100人を超える方が参加。健康運動指導士による健康体操やスポーツ推進委員によるミニ運動会が行われ、参加者は笑顔で体を動かしていました。また、会場では体組成計や下肢筋力の測定、恒例のフリーマーケットなども開催。昼食にはカレーライスが振る舞われました。



**12/15 老人クラブと交流会
栗山高校**
栗山高校の3年生が、同校近隣の老人クラブ「中里長寿会」「天寿の会」の会員14人を学校に招待し交流会を行いました。この交流会は、社会福祉協議会の学校ボランティア活動普及推進事業として行われ、今年で3回目。はじめに、「生活と福祉」の科目を選択している7人の生徒が考えたレクリエーションを行った後『レーズンとりんごの入った蒸しパン』を一緒に作り、食べながら交流。最後に、生徒から今年のカレンダーとマットが贈られました。



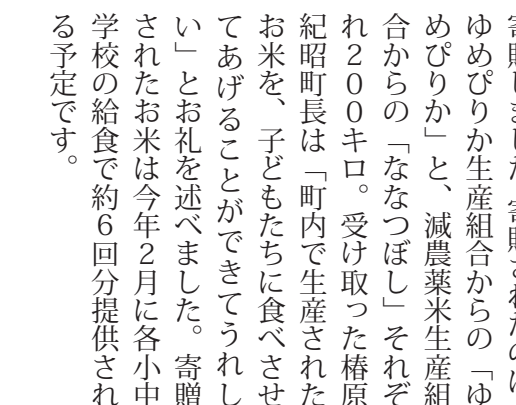
**11/30 フィンランドでの出会いに感謝
介護学校で交換留学報告会**
町立北海道介護福祉学校で、福祉先進国フィンランドでの交換留学に派遣された学生による報告会が行われました。同校2年の眞野良子さん、山下啓太さん、高橋優斗さんは9月7日から25日までの18日間、フィンランドのカヤニニ市にあるカイヌーン職業学校での授業や高齢者施設での実習などを体験。報告会に集まった学生と町民約30人を前に、動画とスライドを使って先進的な介護の取り組みや文化・習慣などを報告し、「フィンランドでの出会いに感謝しています」と話していました。



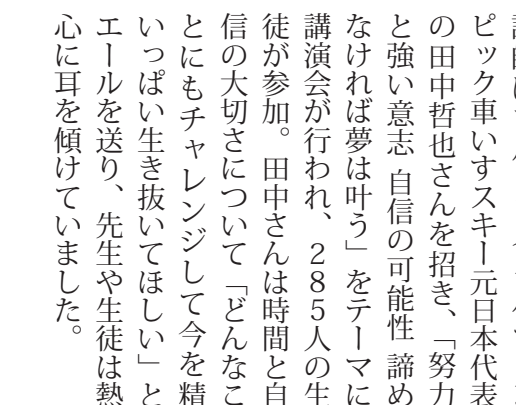
**12/17 冬の訪れ、響き渡るハーモニー
栗山少年少女合唱団**
栗山少年少女合唱団のロビーコンサートがカルチャープラザ「Eki」で開かれました。同合唱団に所属する栗山、長沼の小中高生と体験参加者の合わせて22人が、クリスマスの衣装やアクセサリーをつけ「ジングルベル」など、クリスマスの曲を楽しみに集まった観客約70人はひと足早いクリスマス気分を味わっていました。また、今回は世代別の合唱も披露され、透明感のある歌声や力強いハーモニーが口ビーに響き渡り大きな拍手が贈られました。



**12/8 犯罪や特殊詐欺に気をつけて
歳末警戒ハットロール**
防犯協会と暴力追放運動推進協議会が、「歳末特別警戒街頭パトロール」を行いました。役場会議室で出陣式があり、同協会の木内勲雄会長と同協議会の松原正和会長が「被害に遭わないよう気をつけましょう」「特殊詐欺などへの警戒を強めてほしい」と呼びかけました。その後、両会や栗山警察署、町など約20人の関係者が3班に分かれて駅前通り金融機関などを巡回。各店で「犯罪や特殊詐欺に気をつけて」と、防犯を呼びかけるのぼりやチラシなどが入った袋を配りました。



**12/19 おいしい町内産米を子どもたちへ
生産組合が町に寄贈**
JAそらち南のゆめぴりか生産組合と減農薬米生産組合が役場を訪れ、学校給食用米を町に寄贈しました。寄贈されたのは、ゆめぴりか生産組合からの「ゆめぴりか」と、減農薬米生産組合からの「ななつぼし」それぞれ200キロ。受け取った椿原紀昭町長は「町内で生産されたお米を、子どもたちに食べさせてあげることができてうれしい」とお礼を述べました。寄贈されたお米は今年2月に各小中学校の給食で約6回分提供される予定です。



**12/9 今を精いっぱい生き抜いて
栗山中学校道徳講演会**
今年度最後となる栗山中学校の土曜授業「道徳講演会」が、同校体育館で開催されました。講師にソルトレイクパラリンピック車いすスキー元日本代表の田中哲也さんを招き、「努力と強い意志 自信の可能性 諦めなければ夢は叶う」をテーマに講演会が行われ、285人の生徒が参加。田中さんは時間と自信の大切さについて「どんなことにもチャレンジして今を精いっぱい生き抜いてほしい」とエールを送り、先生や生徒は熱心に耳を傾けていました。